

編 輯 後 記

本年度の大学は比較的平穏であるかにみえたが、昨年暮より学費改訂問題に関して混乱がおこり、所員の中にもその対策に奔走された方も多し。このために研究活動への障害が起こったことも否めない。恒例の四研合同発表会も、教職員組合のストに遭遇して中止の止むなきにいたった。本研究所では牧野所員の「豊橋市郊外の開拓農村の実態とその変容」と題する研究発表を行なう予定であったが、中止となったのは残念である。次の機会を期待するものである。

所員の移動もかなりあった。まず千葉所員が筑波大学教授として転出された。しかし尚本大学に講義をもたれるので、所員として留まって頂き、今回も原稿を執筆して頂いた。また井口所員が、奈良国立博物館に転出され、勤務の関係上所員を退かれたのは、実に残念なことであった。しかし地理学の分野では、山下・宮沢両所員を迎えることが出来、新進気鋭の両所員を迎えて、当地方の地域研究に多大な貢献をえられるであろうことが期待される。(U)

愛知大学総合郷土研究所紀要 第20輯

昭和50年3月15日発行

〔非売品〕

編輯者代表 川 越 淳 二
製 作 雁 思 社
(名古屋市市中村区太閤通7-1-437)
印 刷 好 文 社
(名古屋市中区松原2-18-7)
豊橋市町畑町
発 行 所 愛知大学総合郷土研究所